

平成 24 年度 第 3 回 コーポレート・ガバナンスの対話の在り方分科会 議事概要

日時：2013 年 3 月 7 日（木） 10:00－12:00 ACGA とのセッション

1) 企業報告ラボの活動について

2) 企業価値・IR作業部会／コーポレート・ガバナンス企業意識調査作業部会の活動について

（以下福本室長）

- ・ 資料「企業報告ラボ（Corporate Reporting Lab）」をご確認いただきたい。ラボは2012年7月に立ち上げた組織。企業と投資家が効果的な対話をしていくにはどうしたらよいかを探っていくのが主な目的となる。
- ・ 第一の目的としてメンバーは企業と投資家の間のギャップを特定し、共通の言語を模索している。第二の目的として世界の中で日本市場に興味を持っているプレーヤーとのコミュニケーションを取ることである。今回のミーティングは時宜を得た機会と言える。
- ・ ラボは柔軟性のある組織となっている。「コーポレート・ガバナンスの対話の在り方分科会」と「企業価値・IR作業部会」の2つから構成されている。前者では「開示」や「報告」でなく広範囲の意味を含む「対話」という表現を敢えて用いている。
- ・ このラボは実務家を中心としており、実務に基づく議論を展開している。

（以下江口リーダー）

- ・ 資料「長期投資家が企業経営者に聞きたいコーポレート・ガバナンスについて」をご確認いただきたい。質問票の目的は投資家と被投資家のコミュニケーションを高めることにある。「議決権を行使する」ことを通じて様々な企業とコミュニケーションを図っているが、BlackRockでは現在200社以上の企業と対話をしている。回数を重ねるに従って、両者のコミュニケーションの質は向上している。5～6年前と較べたら違いは顕著である。
- ・ この質問票は対話の一つのツールとして考えている。通常の質問票と異なっており、選択式の回答ではなく、「文章」での回答を求めている。その際には面会をすることを想定している。事前に質問票を送り、準備をしていただいた上で1時間程度インタビューさせていただいている。
- ・ 企業側は質問票を通して、投資家がどういう点に興味を持っているか理解を深めることができ、インタビューの方向性を知ることができる。
- ・ 3つのセクションから構成されている。第一に「規律ある経営」を訊いている。抽象的だが重大な質問である。企業価値、長期的な目標について尋ね、その上で長期的な視点をどのように中期的な計画に落とし込んでいるのか、更には年度計画でどのようにコミットメントしているのか、それぞれ質問をしていく。第二に「マネジメントシステム」について質問する。コーポレート・ガバナンスの体制を訊くだけでなく、報酬についても質問する。最後に「株主と向き合う経営」について質問している。
- ・ 最初のセクションは通常にはない設問だが、まず大枠のところを伺った上で技術的な内容をお聞きしている。現状起草し終えて、7社のインタビューを行っている。日本企業が根本的に抱えている問題は「情報開示」だと個人的に感じているが、実のある議論をすれば、各企業が様々なことを実践していることがわかってくるとインタビューを通して実感している。

(以下福本室長)

- ・ 企業価値・IR作業部会について説明。資料「持続的な企業価値の創造のためのIR」をご確認いただきたい。コーポレート・ガバナンスの対話の在り方分科会では投資家から企業に投げかけているが、逆にこちらでは企業から投資家に投げかけている。
- ・ 質問としては、企業価値、経営理念、中期経営計画、情報開示、コーポレート・ガバナンスなどについてである。これらを集計し、更には他の調査と比較することで全体像が見えてくると考えている。ギャップを確認し、共通項を見出し、対話をしていくことが重要である。

ACGA とのセッションは非公表

以上